

良い記録／悪い記録

①知識定着編

普段の記録を振り返ってみよう！

あなたは普段どのような記録を書いていますか？

次の4つをチェックしてみましょう！

- () 1. 略語や専門用語を使っている
- () 2. 事実のみを客観的に書くようにしている
- () 3. 様子に変化がなければ「特変なし」と書いている
- () 4. 事実を適切に伝えるため、否定的な表現を用いる

1. 略語や専門用語を使っている

この項目にチェックした人は、「わかりやすく書く」ことを意識しましょう！

- ・記録は、「誰が読んでもわかりやすく書く」ことが重要
- ・利用者の家族が目にすることもある
- ・なるべく平易な表現で書くことが望ましい

< 記載・書き方例 >

- × 着替え前にバイタルをチェックしましたが、昨日と大きな変化は見られませんでした。
- 着替え前に**血圧、体温を測りましたが**、昨日と大きな変化は見られませんでした。

※専門性を伴う介護サービスには、利用者・家族にとって、わかりにくい用語があることに留意！
CM(ケアマネジャー)などの略語の使用も控える！

2. 事実のみを客観的に書くようにしている

この項目にチェックした人は、「**事実に基づいた推測やアセスメント結果も書く**」ことを心がけましょう！

- ・証拠としての介護記録には「客観性」が重要
- ・介護を振り返る上では、その時感じたこと、見極めたことなどの情報も重要となる
- ・「事実」と「推測」が混同しないように分けて書く

< 記載・書き方例 >

- × 本日も予定通り入浴を介助しました。
- 本日も予定通り入浴を介助しました。ご本人様は笑顔が見られ、気持ちよく入浴されたと見受けられました。

※句点(。)を使って文章を短めに書き、読点(、)を使って文章を区切る。その際、事実と、介護職員として感じたことや見きわめたこと、推測したことなどは、分けて書く。

3. 様子に変化がなければ「特変なし」と書いている

この項目にチェックした人は、「**特変なしと判断した理由も書く**」ように心がけましょう！

- ・身体的な様子は同じでも、心は日々変化している
- ・何か理由があって「特変なし」と判断したはず
- ・バイタルサインや食事の様子など、客観的なデータを示すことが大切
- ・いつの時点から「変わりない」のか
- ・些細な変化があれば、それを見逃さずに書く

< 記載・書き方例 >

× 特変なし

○ 前回の訪問時と同様に、食事を残さず召し上がった

※ その日にあった出来事や、利用者の心身の状態や言動、さりげなく観察して気づいたことなど、何か一筆、記録することで、利用者の状況をふまえた良質なサービス提供が可能に！

4. 事実を適切に伝えるため、否定的な表現を用いる

この項目にチェックした人は、「記録を見た相手がどう思うか」考えてみましょう！

- ・記録は、第三者の目にふれるもの
- ・利用者・家族が見ることもある
- ・利用者・家族に寄り添う、共感的なことも必要

< 記載・書き方例 >

× 本日は、入浴を拒否されました。

○ 本日は、3度、お声をかけましたが、「後でいいわよ」とおっしゃいました。お気持ちに乗らないご様子のため、入浴は行いませんでした

※“拒否”といった否定的な言葉を目にした利用者・家族が、不快な思いを抱くかもしれないことに配慮！

まとめ

良い介護記録のキーワードは、次の4つ。

- ・「証拠」
- ・「専門サービス」
- ・「多職種連携」
- ・「法令遵守」

これらをクリアするために重要なのは、「誰が読んで
も画一的に理解できるように、平易な言葉で、わかり
やすく書く」こと！

お疲れさまでした。